

浄願寺だより

R2夏No.14

遠方にお住まいのご門徒さんから定期的に近況を聞かせてほしい、との要望がありこのたび浄願寺だよりとしてお寺をとりまく身近な出来事を取りもめてお知らせしようと思えます。夏冬二回発行を予定しています。

令和二年八月九日発行

編集責任者

浄願寺住職 関 秀法

あたりまえの

ありがたさ

わたしたちの日常は、あたりまえで出来ています。

朝、目が開いてあたりまえ。おはようという相手がいてあたりまえ。蛇口をひねれば水が出てあたりまえ。ごはんが食べられてあたりまえ…。

私たちの脳は、それをいつたん「あたりまえ」と思ってしまったら、もうそこには感謝も感激もしなくなるものです。

しかし、私たちの人生は、時にその「あたりまえ」を「あたりまえ」でなくすることによって、何か大切な事を思い出させようとしてくれます。

十数年前、父親が脳梗塞を患ったとき、喉の筋肉にマヒがでて、とぜん唾を飲み込むことが出来なくなつたそうです。「唾が飲み込めない」というだけで、それがどんなに

苦しい事か、考えたこともなかった。「そう父は話します。

リハビリの末、ようやく唾が飲めた時には手を合わせて感謝した、とのこと。もちろん今はもう、それは「あたりまえ」の日常に戻っています。

この数か月の間に全世界に蔓延し、猛威を振るい続けるコロナウイルス。この得体の知れない新型ウイルスが最初に私たちから奪つたものは、私たちの「あたりまえ」の日常でした。人通りの絶えた街、子供たちのいない卒業式、マスク越しの会話、身近な人への不安や警戒心。私たちの「あたりまえ」が、あれよあれよという間に崩れていく様は、さながら近未来小説か映画を見ているようでした。

「あつてあたりまえのものはない」「居てあたりまえの人はいない」。これまでも何度も何度も聞いて

きたことです。しかし、その「あたりまえ」の有り難さや大切さもすぐに忘れ、世事に追われて朝夕を過ごす私たちに、今回のコロナウイルスが何か大喝を与えてくれているようにも思います。そしてその大喝さえも、新しい生活様式の名のもとに、すでに掻き消されて行くこうとしている…。過去の賢人たちが、私たちの心を「無明（真つ暗闇）」と呼んだ嘆きが聞こえてくるようです。

ある ある ある

みんなある

さわやかな秋の朝

病気で両手両足を失い、見世物小屋で働き、それでも口を使い炊事、洗濯、裁縫をこなし、書をかき、詩を作り七十二年の生涯を生き抜いた、中村久子さんの詩の一節です。

ある ある ある
みんなある

私たちにとつて、「あたりまえ」とはいったい何でありましょう。この混迷のコロナ禍の中、今年のお盆を迎えるにあつて、いま一度皆さんと思いを巡らせてみたいと思います。

合掌

令和二年孟蘭盆

住職



本堂スロープが完成しました。

お寺の本堂に上がっていただくのに、これまでは4段の高い階段を登っていただく必要がありました。足が不自由な方、車椅子の方が本堂前まで来られて「私はここからお参りします。」と入堂をあきらめられた事も何度かございました。

でも、これからは大丈夫です。段差なく安全に本堂まで上がっていただけるスロープが完成しました。

本堂に上がるスロープは住職の十年来の念願でもありました。浄願寺は、法要のご参加も多く、また教化団体の集いや、本堂を使った葬儀等にも頻繁に使用され、いろいろな方が安全に出入りできる環境の整備が求められていました。またこれからの高齢化、人権意識の変化に対応するため、このスロープは必要不可欠のものです。

費用的な問題もあり、なかなか着工出来ませんでした。が、こ

の度、総代様方のご理解、ご門徒の皆様のご協力を得て、ようやく完成することができました。

お世話になつたご門徒の大家さんが知恵を絞ってください、お寺に相応しく、景観にマッチした大変美しい建物にしてくださいました。それは「だれもが平等に救われる」という阿弥陀様のみ教えをいただく私たち浄願寺門徒の心意気を表しているようです。

足下に不安のある方はもちろん、健脚の方も、子供も大人も一緒に新しい浄願寺の入口をどうぞご利用ください。

皆さまのお参りを心よりお待ちしております。



門徒の広場

門徒の広場はWEB版ではご覧いただけません。

編集後記

関西お笑い界の女帝、上沼恵美子さんが突然司会をつとめる人気番組を降板しました。いろいろと理由があつたのでしようが、「コロナの影響で、出演者との距離が遠くなり、今まで培ってきた話芸の間合いでは面白味が出せなくなつた。」のが主な原因なのだとか。上沼恵美子さんには遠く及びませんが、私も最近、マクドナルドで距離の離れた方々へ語りかけることの難しさに戸惑いを感じている者の一人です。だからといって、突然法事を降板ともいかず…。早くおさまって欲しいです、コロナ…。

みなさんの声から生まれた新しいかたちのお墓です。



ふるさとの杜墓苑
永代供養墓

www.furusatonomoriboen.com

浄土真宗本願寺派
笹尾山浄願寺

〒620-0925
福知山市上篠尾725
電話(0773)-22-5280
email jyouganjiweb@gmail.com
http://www.jyouganji.com

住職 関 秀法